

指導計画案について調査報告

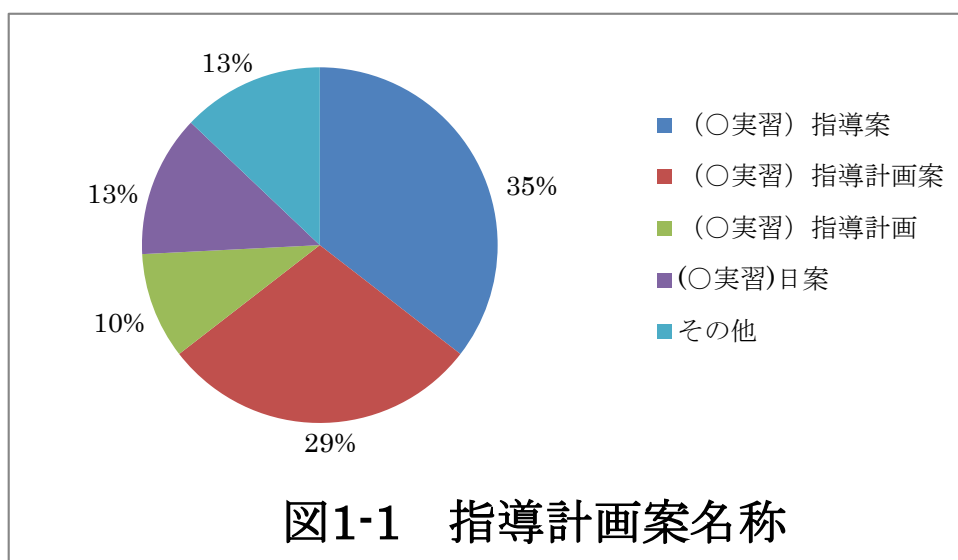
指導計画案は、31校の養成校から合計44種類の書式が提出された。数種類の書式を提出した養成校は10校であり、その中で全日と部分で2種類の書式を用意している養成校が4校、教育実習用や施設実習用のように実習の種類にあわせ書式を分けている養成校が3校、便宜上2種類の書式を用意している養成校が1校、実習種別や全日、部分など実習の種類に合わせて3種類の書式を用意している養成校が1校、4種類の書式を用意している養成校が1校であった。ただし、本来数種類の書式を用意しているが今回は保育所用の書式のみを提出している養成校もあると思われるので、数種類の書式の中から保育所用の全日実習の書式に絞って分析し、東北ブロックで使用されている指導計画案の中から平均的な項目や用語を集めた書式の試案を作成した。また、全日と部分の違い等について比較した。

1. 保育所用の全日実習の指導計画案の分析

提出された31校の養成校数を基に、以下の項目についてそれぞれの名称や項目の割合を算出した。

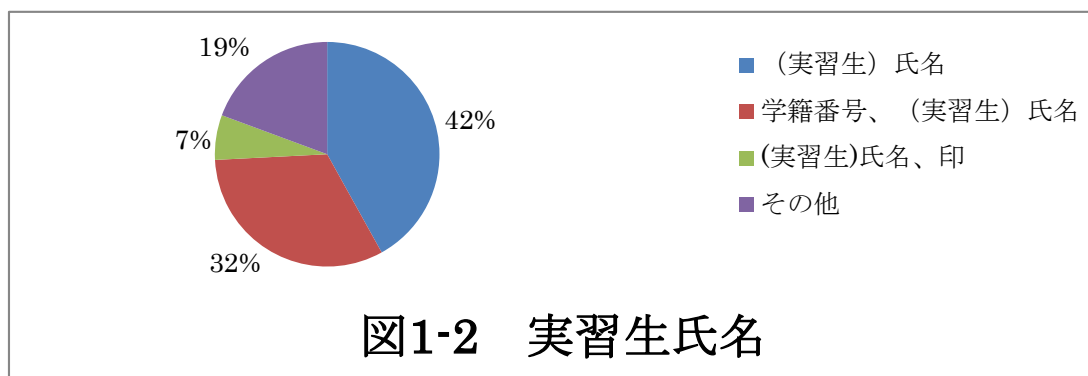
(1) 指導計画案名称

「(○実習) 指導案」の名称が一番多く使用されており、35% (11校) であった。次いで「(○実習) 指導計画案」の名称が29% (9校)、「(○実習) 日案」の名称が13% (4校)、「(○実習) 指導計画」の名称が10% (3校) の順で使用されていた。



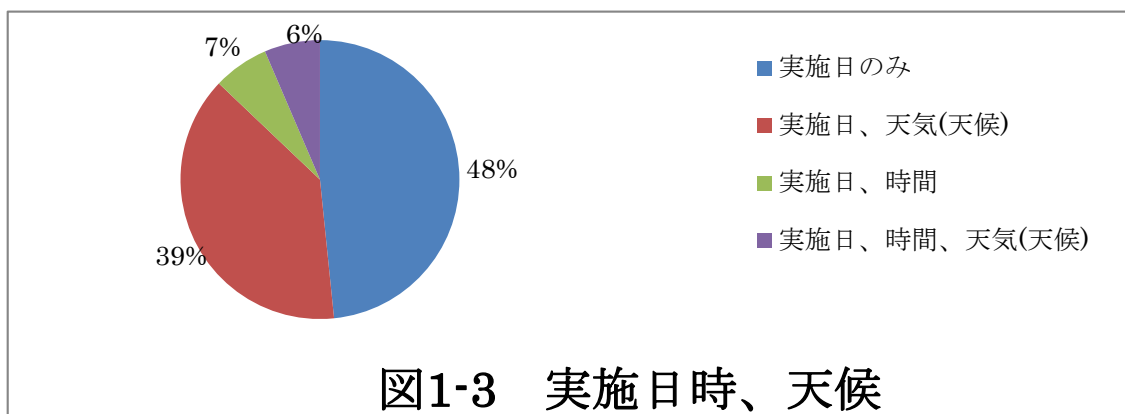
(2) 実習生氏名

実習生氏名を記入する欄では、(実習生) 氏名のみを記入させる養成校が42% (13校) と最も多く、次いで学籍番号氏名を記入させる養成校が32% (10校) と多かった。実習生氏名の横に捺印させる養成校も2校あった。



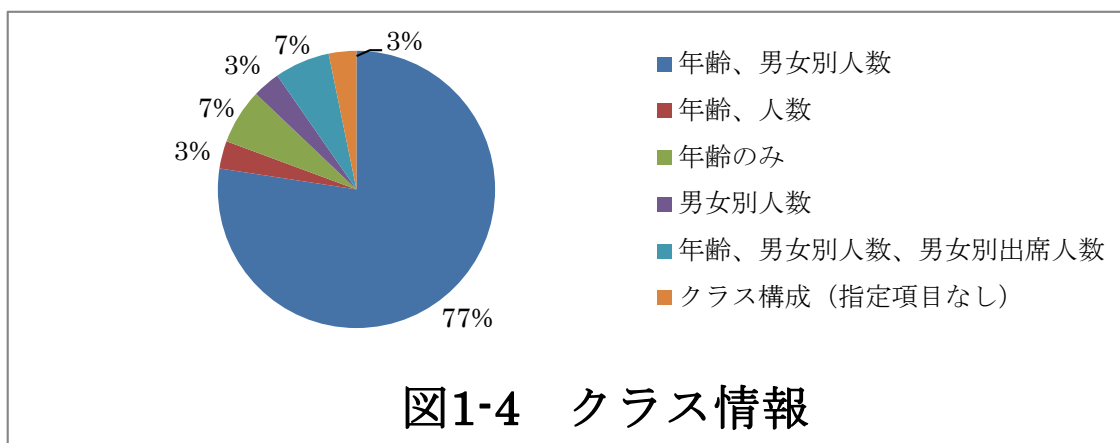
(3) 実施日時、天候欄

実施日時、天候欄では、実施日のみを記入させる割合が一番高く、48%（15校）であり、次いで実施日と天気（天候）を記入させる割合が39%（12校）と高かった。少数であるが、実施時刻を記入させる書式もあった。



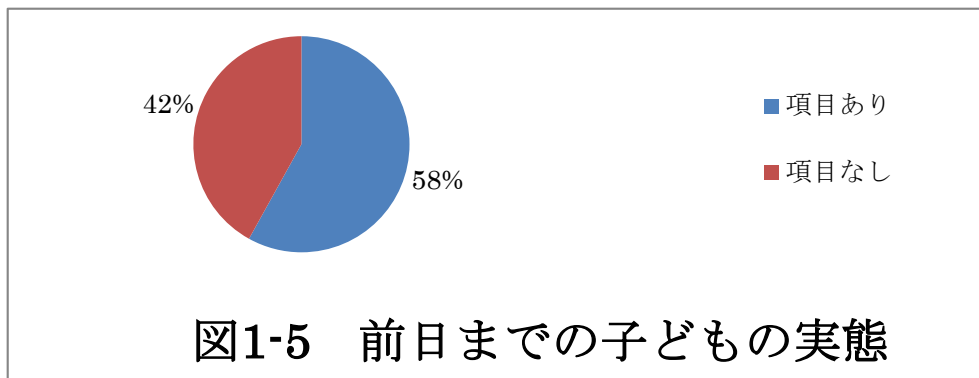
(4) クラス情報の項目

責任実習を行う対象クラスの情報を記入する欄では、対象児の年齢、男女別人数を記入させる書式が圧倒的に多く、77%（24校）であった。



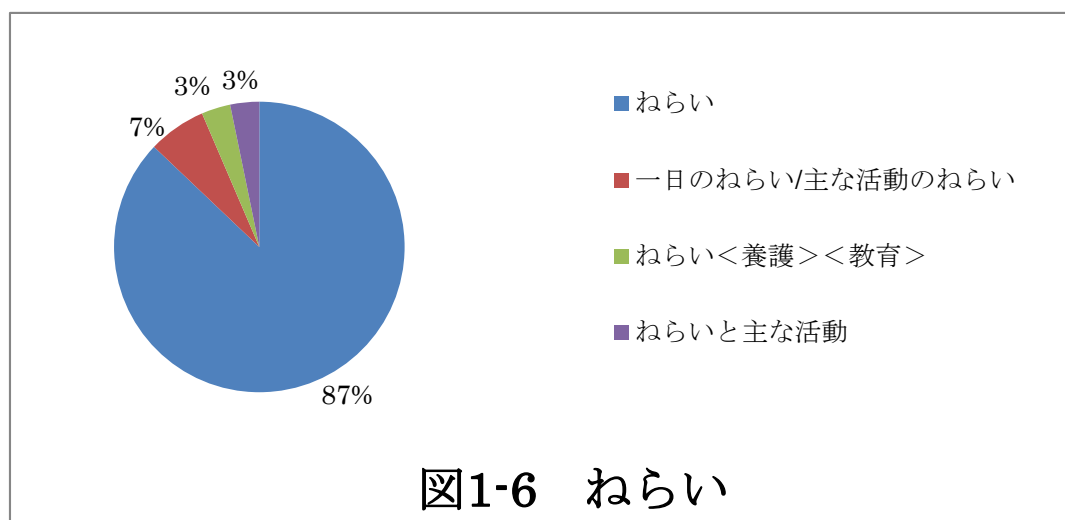
(5) (前日までの) 子どもの実態の項目

(前日までの) 子どもの実態の項目がある書式が 58% (18 校)、項目なしが 42% (13 校) であり、この項目を設定している養成校の方が多かった。項目を設定している養成校が使用している項目の名称は、子どもの姿 (4 校)・これまでの子どもの姿 (3 校)・前日までの子どもの姿 (1 校)・子どもの実態 (2 校)・乳幼児 (幼児) の姿 (2 校)・これまでの子どもの様子 (2 校)・子どもの様子 (1 校)・子どもの姿、クラスの実態 (1 校)・クラスの様子 (1 校)・子どもの状況 (クラスの状態) (1 校) であり、「子どもの姿」が最も多かった。



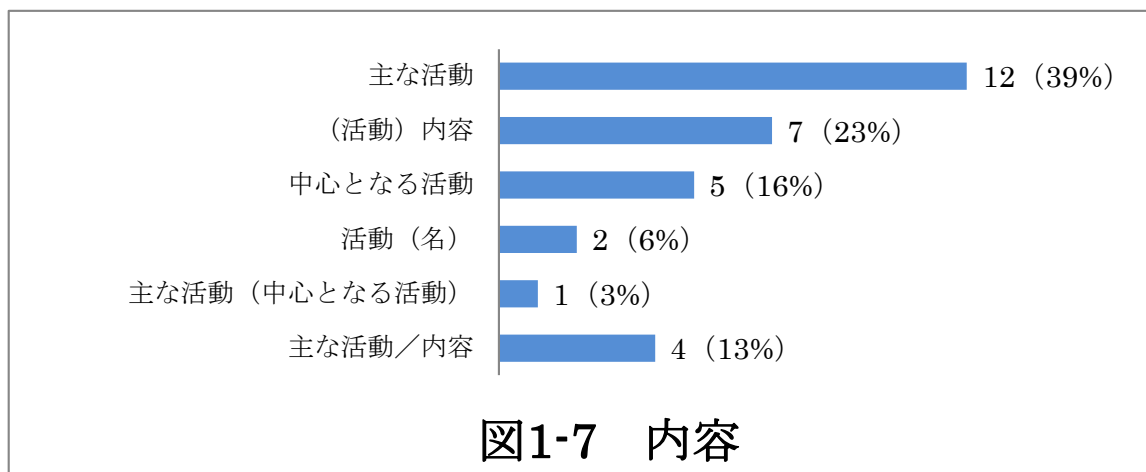
(6) ねらい

ねらいの項目は 31 校全ての養成校が設けており、その表記は「ねらい」が 87% (27 校) と大半であった。その他には、「一日のねらい」と「主な活動のねらい」それぞれ書かせる養成校 (2 校)、<養護>と<教育>それぞれのねらいを書かせる養成校 (1 校)、「ねらいと内容」を一つの項目にしてその他に「主活動」の項目を設けている養成校 (1 校) があつた。



(7) 内容

内容の項目では、「主な活動」の表記が最も多く、39%（12校）であった。次いで「(活動)内容」が23%（7校）、「中心となる活動」が16%（5校）の順で多かった。中には「主な活動」と「内容」とに分けて、ねらいに対する内容を書かせている養成校も13%（4校）あった。



(8) 展開欄の項目と順番

展開欄の項目と順番について、最も多かった形式は、左から順番に時間欄、環境構成欄、予想される子どもの活動欄、保育者の援助・配慮点欄の4項目になっているものであり、58%（18校）であった。次に多かった形式は、項目は同じ4項目であるが、順番が左から時間欄、予想される子どもの活動欄、環境構成欄、保育者の援助・配慮点欄になっているものであり、20%（6校）であった。

用語について、時間欄では時間（21校）が最も多く、その他に時刻（6校）、生活の流れ（時間）（3校）という表記の養成校もあった。環境構成欄では、環境構成（環境の構成）、が大半であったが、環境構成（場の設定と準備物等）、環境構成・準備物という表記の養成校もあった。予想される子どもの活動欄では、予想される子どもの活動（18校）が最も多く、次いで予想される（乳）幼児の活動（6校）が多かった。保育者の援助・配慮点欄では、保育者、実習生、援助、配慮、留意点、指導といった用語の組み合わせであるが、保育者の援助・留意点（7校）が最も多く、保育者の援助・配慮（5校）、指導・援助の留意点（4校）、保育者（実習生）の援助（4校）と続いた。

- 3項目○時間○環境構成と予想される子どもの活動
○保育者の援助・配慮点
- 3項目○時間○子どもの活動○保育者の援助・配慮
- 3項目○時間○保育者の援助活動○予想される子どもの活動（環境構成は別欄）
- 4項目○時間○環境構成○予想される子どもの活動
○保育者の援助・配慮点
- 4項目○時間○予想される子どもの活動○環境構成
○保育者の援助・配慮点
- 欄のみ 4項目
- 5項目○時間○環境構成○準備○予想される乳幼児の活動○指導・援助の留意点
- 5項目○時間○環境構成○保育者の動き○子どもの活動と姿○指導・援助の留意点

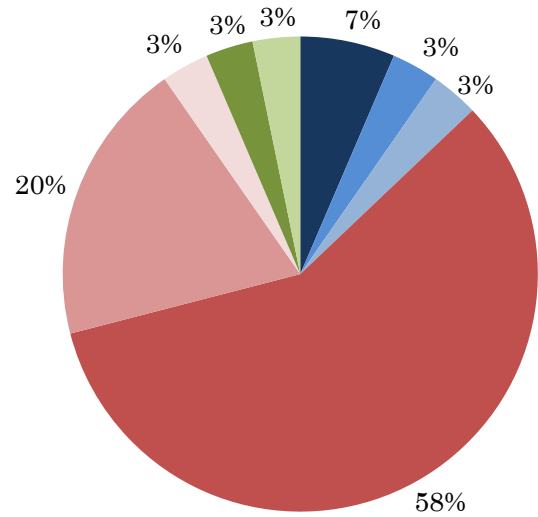


図1-8-1 展開欄の項目と順番

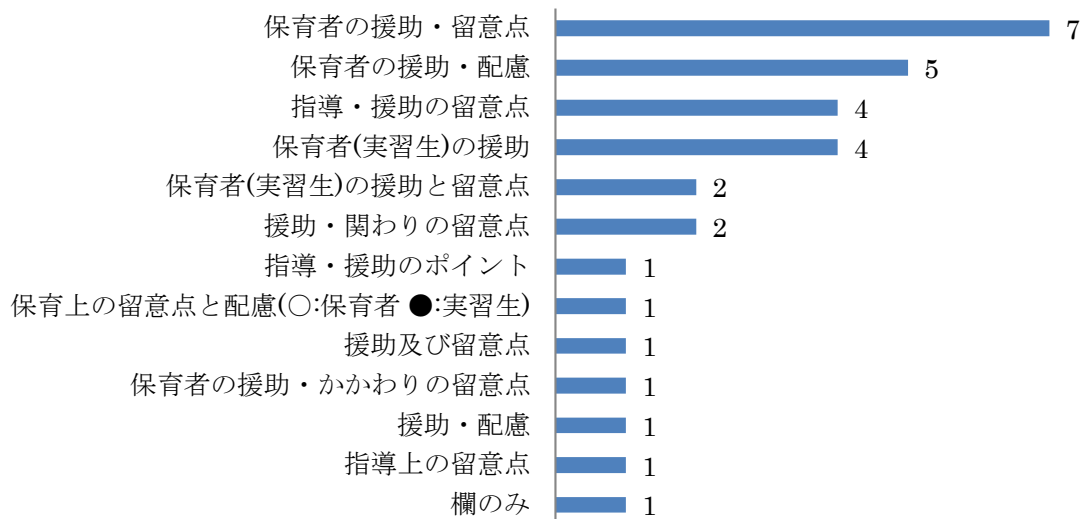


図1-8-2 保育者の援助・留意点 (用語)

(9) その他の項目について

その他の項目として、反省・評価・考察などの欄、指導者名や検印欄、指導者の助言、準備物といった項目を設けている養成校があった。その中でも、反省・評価・考察などの欄を設けている養成校数は16校（52%）と半数以上であり、責任実習の振り返りを重視している養成校が多いことが分かる。その内訳は、反省（5校）、評価・反省（4校）、反省・考察（3校）、評価（1校）、反省と課題（1校）、感想と反省（1校）、記録・考察・評価（1校）であった。また、指導者名を書く欄や検印欄を設けている養成校が14校（45%）、準備物の欄を設けている養成校が13校（42%）と、それぞれ半数近い数字であった。

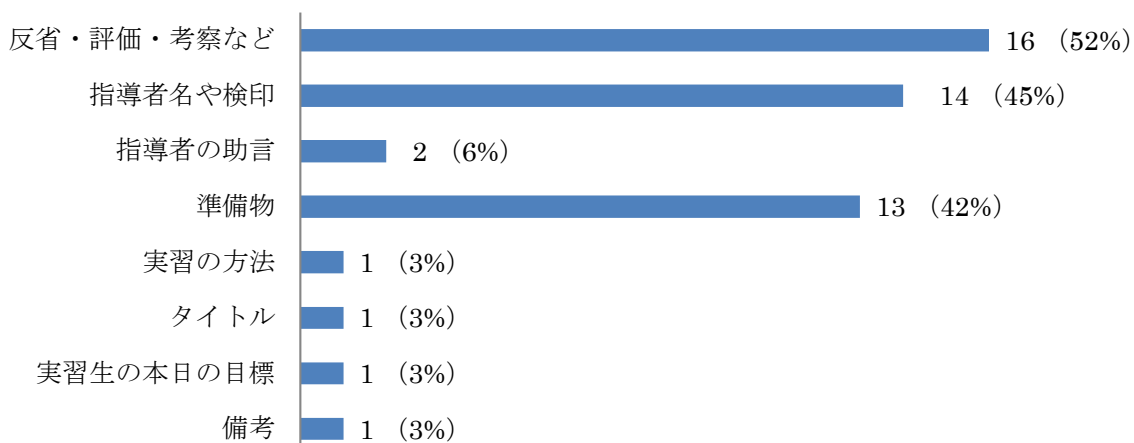


図1-9 その他の項目

(10) 用紙の向き

用紙の向きは縦にしている養成校がほとんどであり、87%（27校）であった。

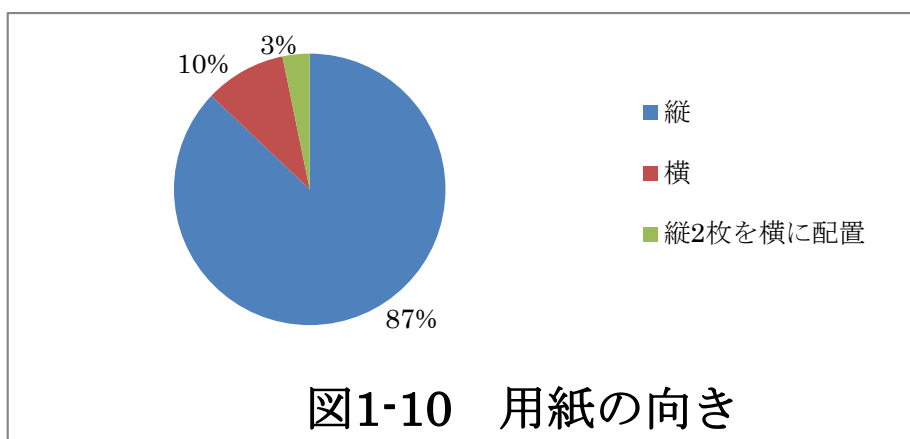
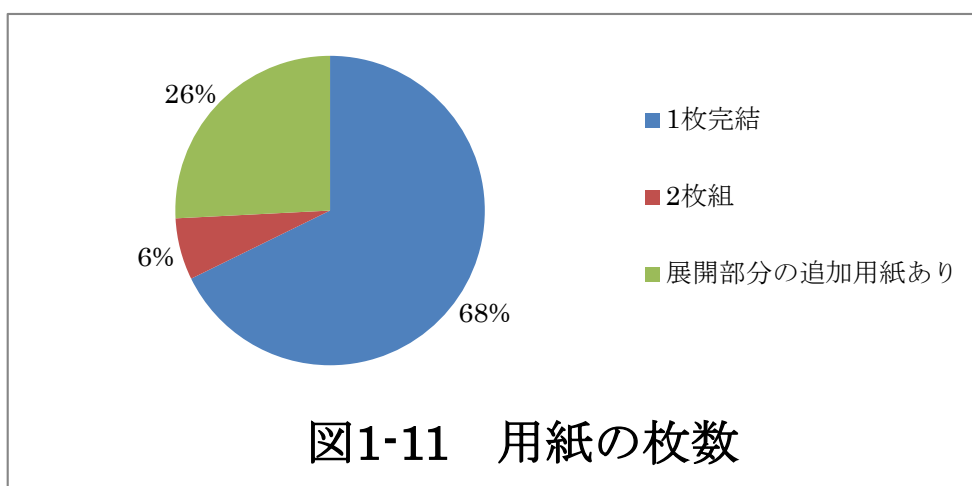


図1-10 用紙の向き

(11) 用紙の枚数

指導計画案（全日）の用紙について、実習生氏名やクラス情報といった基本的な情報から展開欄までを1枚で完結させる形の書式になっている養成校が最も多く、68%（21校）であった。次いで展開部分の追加用紙を用意している養成校が26%（8校）と多かった。また、全日実習の用紙を2枚組にしている養成校も6%（2校）あった。



2. 保育所用の全日実習指導計画案書式とその他の指導計画案書式との比較

(1) 全日実習指導計画案書式と部分実習指導計画案書式の比較

保育所実習において、全日実習用の指導計画案（全日案）書式と部分実習用の指導計画案（部分案）書式を分けている養成校は6校であった。その6校の養成校について、全日案書式と部分案書式との違いを分析したところ、次の結果が出た。

表 2-1 全日案書式と部分案書式とで違いのある項目

違いのある項目	養成校数
①指導計画案名称	6校
②前日までの子どもの実態	1校
③ねらいと内容	2校
④展開欄の時間	1校
⑤用紙の枚数	2校

①指導計画案名称は、全日実習か部分実習化の違いであり、6校とも名称を分けていた。②前日までの子どもの実態については、1校が全日案ではクラスの様子、部分案では子どもの姿と項目名を変えていた。③ねらいと内容については2校とも同様であり、全日案では一日のねらいと主な活動のねらいを書かせていたが、部分案ではねらいのみであった。また、全日案では主な活動という内容であったのに対し、部分案では活動と変えていた。④展開欄の時間については、全日案では生活の流れ（時間）、部分案では時間と変えている養成校が1校あった。⑤用紙の枚数については、2校の養成校とも全日案では2枚、部分案で

は1枚と枚数を変えていた。その他の項目は統一されていた。

以上のように、全日案と部分案では大きな違いは見られなかったが、養成校によっては一日の実習かその中の一部分の実習かを学生が意識しやすいように用語を一部変えたり、用紙の枚数を変えたりする工夫が見られた。

(2) 保育所実習用の指導計画案書式と施設実習用の指導計画案書式の比較

保育所実習用の指導計画案書式と施設実習用の指導計画案書式を分けている養成校は2校であり、2校とも同様の書式を活用していた。保育所実習用書式と施設実習用書式の違いは、表2-2の通り5つであり、その他の項目は統一されていた。主に用語の使い方に工夫が見られた。

表2-2 保育所実習用書式と施設実習用書式とで違いのある項目

違いのある項目	保育所実習用書式	施設実習用書式
①指導計画案名称	指導計画案（保育所）	支援計画案（施設）
②クラス情報	年齢・クラス・男女別人数	なし
③前日までの子どもの実態	これまでの子どもの姿	これまでの子ども（利用者）の姿
④内容	主な活動	なし
⑤展開欄	時間／環境構成／予想される子どもの活動／保育士等の援助・留意点	時間／予想される子ども（利用者）の活動／職員（実習生）の活動・援助・留意点

(3) 保育所実習用の指導計画案書式と教育（幼稚園）実習用の指導計画案書式の比較

保育所実習用の指導計画案書式と教育（幼稚園）実習用の指導計画案書式を分けている養成校は2校であり、2校とも指導計画案名称と反省欄に違いがあるのみで、その他の項目は統一されていた。反省欄について、1校は保育所用書式が考察・反省、教育実習用書式が記録・考察・評価と変えていた。もう1校では、保育所用書式のリフレクション欄がなく、教育実習用書式のリフレクション欄が評価となっていた。2校のみの結果であり参考にしかないが、保育所実習よりも教育実習の方が振り返りを重視している傾向が窺われた。

3. 調査票“指導のポイント”の記述内容について

指導計画案の指導のポイントは、現在検討中の養成校も含めて31校の養成校から回答があった。各養成校の実情に合わせて様々な工夫がなされており、様々な観点からの記述があったので、①指導担当者②実施授業③指導方法④指導上のポイント⑤その他の観点に分けてそれぞれまとめた。

①指導担当者についての記述

指導計画案の指導担当者については、実習指導担当者や実習担当者が中心となって実施

している養成校、実習指導担当者と 5 領域や保育内容研究等の授業担当者が協力しながら実施している養成校、担任が協力したり専任教員全員が協力したりして指導している養成校、元保育士である非常勤講師が中心となって添削している養成校など、様々であった。形式的な指導だけでなく、保育経験や専門性が求められる指導内容もあるため、各養成校の実情に合わせた教員間の連携や協力体制が窺われる。

②実施授業についての記述

実施授業については、実習指導の授業内で実施するだけでなく、5 領域や保育内容研究等の授業内でも実施している状況が複数の記述から見られた。また、保育実習 I の事後指導時に、実習記録を基に環境の構成や保育者の援助などを振り返りと共に確認し合う指導を行っている養成校もあった。

③指導方法についての記述

教材研究や模擬保育をする際に、指導計画案作成を兼ねて実施している養成校の記述が複数見られた。

④指導上のポイントについての記述

- ・基本的な様式に基づいて立案の仕方を指導するとともに、多様な様式を示して、一人一人の子どもも理解を大切にしながら保育者の援助を考えるように指導している。
- ・文末表現や言い回しなどを含め、例を示しながら指導している。
- ・予想される子どもの姿をしっかりと記述するよう指導している。
- ・PDCA の中での位置づけ、子どもの生活の様子をとらえて子どもたちが楽しいと思うような活動の案を考えることや、計画案を考える際には活動の連続性を考える必要があること、活動の中で子どもの行動や気持ちについて予測をできる限りすること、活動の運び（行動計画）を示すだけでなく、活動におけるねらいをもった保育者の配慮、意図を記載することなどについて伝えている。
- ・年齢や発達を捉えて作成するよう指導している。（2）
- ・実際の保育をシミュレーションし、細部に渡り丁寧に記入するよう伝えている。
- ・誤字・脱字に気を付け、提出日時を厳守するよう指導している。

⑤その他

- ・指導計画案様式を事前打ち合わせ時に持参し、実習先の確認を頂いて使用している。
- ・実習施設で使用している様式があればそちらを優先するよう指導している。（3）